



公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10  
TEL(058)244-0150 FAX 244-0151  
ホームページ <http://www.ktroad.ne.jp/~gikyo/>

『題名のない音楽会』

公益社団法人 岐阜県交響楽団

理事 澤田 栄



50周年の「サントローホール」東京公演、55周年の「ムジークフライン」ウイーン公演、「岐阜の絆」三千人の第九合唱等々、思えば岐阜県交響楽団とともに沢山の感動を共有させて頂きました。今、龍が天を昇るような飛躍を遂げているわけですが、平成10年、練習場の竣工以前の困難な時代より今日まで、力強く導いて頂きました岡本理事長をはじめ先輩各位に心からの敬意と感謝を申し上げます。

弊社は出光ブランドでサービステーションを運営しています。出光興産創業者、出光佐三店主は映画「海賊とよばれた男」

のモデルその人です。出光とオーケストラ、一見何の関係もないように思われるかも知れませんが、実は出光は昭和39年8月から半世紀以上にわたり、「題名のない音楽会」というテレビ番組を弊社提供することで、音楽の魅力を視聴者に伝えていきます。この番組は平成21年には「世界一長寿のクラシック音楽番組」としてギネス認定され、本年3月には放送2500回を迎えました。また、途中でCMを入れない構成であることでも知られています。なぜCMが入らないか、それは出光佐三店主の「芸術に中断は無い」という考えに基づいています。

「題名のない音楽会」は昭和63年7月「ぎふ未来博」でも収録演奏しています。テーマはカンタータ「薬師悔過」。(カンタータはイタリア語のcantata「歌う」に由来。)東京混声合唱団と薬師寺僧侶の絶叫がオーケストラと響きあう、黛敏郎の作品カンタータ「悔過」を同時演奏するという極めて挑戦的な演出でした。クラシックと仏教の融合ということで当時の私にはあまりにも難解であり衝撃でした。とはいえ番組スタート当時から、オーケストラと異ジャンルの音楽の融合というチャレンジを続けていることは、番組の大きな魅力です。多岐にわたる音楽に気軽に触れることのできる「題名のない音楽会」は、視聴者の音楽鑑賞を深める架け橋となつていきます。休日のひととき、是非ご覧ください。最近放送時間が変更になり、東海エリアでは毎週土曜日の朝6時からメ〜テレにて放送中です。

ところで私は大学時代、ジャズオーケストラでベースを弾いていました。指揮者はおらず、リズムセクションに合わせて、全体としての規律を保ちつつアンサンブルが躍動、ソリストのアドリブが重なります。当時宝塚で開催されていた、大学ビッグバンドコンテストに出場し最優秀賞を獲得、テレビやラジオに出演したこともありました。練習の苦しさはコンサート本番での感動を増幅することを実感しました。

岐阜県交響楽団はアマチュアオーケストラです。楽団員はそれぞれ別の仕事と両立しながら、真剣に演奏活動が続けています。定期演奏会のみならず、年間を通じて様々な企画に取り組み、個人練習、パート練習をこなしながら、本番を迎えていくことは大変なエネルギーを要します。しかし大好きな音楽の演奏とともに人生を歩んでいけることは、素晴らしい幸せなことだと確信します。プレッシャーと達成感を積み上げながら、より輝ける人生を歩んでいかれることに最大のエネルギーを贈ります。これからも聴衆に感動を与え地域社会に貢献できるオーケストラを目指し、共に努力してまいります。

(丸栄石油株式会社  
代表取締役社長)

## 「自由」を求めたシヨスタコーヴィチ

井村 誠貴

岐響では実に1999年に演奏して以来18年ぶりに取り上げられる、シヨスタコーヴィチ・交響曲第5番。あっ！そう言えば、私が初めて岐響定期を指揮させて頂いたのも99年！（第57回定期・28歳）。そして、この作品を初めて指揮（他団体）させて頂いたのは1998年。

おっ！岐響にアシスタント指揮者として初めて参加したのも98年！もう19年も前になるのか。時の流れは実に早いものである。あれから20年近くの時を経て、私と岐響がこの作品で巡り合うのも不思議な縁を感じる。

さて本題に戻ろう。今回取り上げるシヨスタコーヴィチの交響曲第5番は、音楽史上に燦然と輝く交響曲である。曲の解説に関しては、プログラムノートに素晴らしい解説が掲載されているので、是非ともそちらをご覧下あれ。ここでは、私とこの作品との関わりや、作品に対する想いや解釈について書かせて頂きます。

この作品との最初の出会いは、テ

レビドドラマだった。1958年から32年間の長きに渡って放映された『部長刑事』のオープニングテーマとして第4楽章の冒頭が流れていた。大阪上空の空撮映像が印象的だったが、その音楽のあまりの怖さに、幼い私はチャンネルを変えたものでした（この『部長刑事』が関西ローカルだと知ったのは、つい最近）。初めて全曲を聴いたのは中学生の頃、バーンスタインのニューヨーク・フィルだった。『部長刑事』で聴いた怖い音楽とは違い、華やかで爽快！何よりも格好いい！と感じる音楽だった。この曲に夢中になった私は、すぐさま吹奏楽用に編曲まで試みる程だった（…はい。未完成で終わりましたが）。高校生の頃、この作品を初演した指揮者ムラヴィンスキーがレニングラードフィルと共に大阪に来る！という情報を得、すぐさまチケットを購入！がしかし、直前で体調不良の為、ムラヴィンスキーがキャンセル。ショツクだった記憶だけが残っている。後に、この作品を初めて指揮する事になった27歳の私は、初めて曲につい

て深く勉強した。指揮者の仕事は単に譜面を読むだけではない。その作品の時代背景や、どの様な想いで作曲されたかなどを読み取っていく作業が大半かも知れない。「指揮者は作曲家の僕」と言う言葉が物語るように、作曲家が作品を通して表現しなかった事を具現化させる。この事において、この交響曲第5番は、あまりにも複雑で悲しい現実を背負っている事に初めて気付いた。バーンスタインの録音で感じた、華やかで爽快！格好いい！とは程遠い背景を初めて知った。あながち『部長刑事』で感じた怖さは間違いはなかったのかも知れない。

作品の内容にも少し触れておこう。「西洋モダニズム」を自身の音楽スタイルとして突き進んで行ったシヨスタコーヴィチに対し、ソ連共産党は厳しく批判し、彼を粛清の対象としていた。愛娘が生まれて間もない時期でもあり、家族を守る為にも、また自身の音楽家人生を守る上においても、「西洋モダニズム」スタイルを封印するほかなかった。起死回生の作品となったのが、この第5番交響曲。「社会主義リアリズム」として受け入れられ、シヨスタコーヴィチは一気に名誉回復とな

る。時代に翻弄され、自身の音楽的スタイルを捨ててまで書き上げたこの作品が、皮肉にもシヨスタコーヴィチの代表作となつて行くのである。

さて、このシヨスタコーヴィチという作曲家には、幾つもの疑問が残されている。中でも、注目されたのが、作曲家の死後1979年に出版された『シヨスタコーヴィチの証言』と言う回想録である。著者ヴォルコフ自身は、シヨスタコーヴィチの了解を得たと主張しているが、不自然な箇所も多いと指摘されている。内容は、反ソ連的箇所が多く、この5番も、体制批判が盛り込まれた作品とされている。簡単に言えないが、共産党統制の中において、自由を奪われた中でも、自己の主張を明確に音楽に現したとされている。例えば、頻繁に用いられる『カルメンの』『ハバネラ』である。『カルメンは世界で最も有名なオペラだが、その中で使われる『ハバネラ』のメロディが頻繁に用いられている。勿論、作曲家自身が『ハバネラです』と言った訳ではないが、確かに調性も同じ二長調。『ハバネラ』について少し書いてみよう。『ハバネラ』は主役カルメンがオペラで最初に登場するシーンで歌う曲で、作品中最も有名な曲と言っても良い。「恋は気

ままな鳥、法も理屈もない。鳥はまた空へ、追いかけりや逃げて行く」と歌い上げる。何とも意味深。勿論ここで登場する鳥とは、カルメン自身の事を指すのだが、鳥が自由の象徴となれば、少し解釈も変わって来る。ここからは個人の主観ではある。自身の意に反し「社会主義リズム」を無理やり書いたとして、しかし、その中に「自由(ハバネラ)」を求めたシヨスタコーヴィチ自身の想いを重ねたとも理解できる。さらに、フルートとホルンで奏でられるフレーズは「ラ・ムール(愛)」と何度も連呼されている。この「愛」とは、家族、そして生まれたばかりの愛娘ガリーナを指すのではないかと。「西洋モダニズム」を追求し続ける事は、粛清に結びつき、結果として家族をも不幸にしてしまうという想いがあったのではないかと。また第4楽章で頻繁に登場する「ラ・レ・ミ・ファ」の音列。この音列も全く「ハバネラ」とリズムも音程も同じ。「ハバネラ」では「気をつけろ」と歌う。いったい何に気をつけろという暗示なのか？共産党から身を守る為に発した言葉か？それとも、共産党批判として、体制崩壊を望んで出て来た言葉なのか？あくまでも個人の主観です。そして最後には執拗に演奏される「ラ」の音。この

「ラ」の音にも、シヨスタコーヴィチ自身の強い思いが込められている。一説には「ラ」とは女性を意味すると言う。この場合の女性とは、やはり前述の家族であろう。そして、もう一つの意味には、古いロシア語で「私」という意味になる。執拗に繰り返される「私」には、ソビエト社会主義、共産党体制への自身の想いとも受け止められる。「西洋モダニズム」を封印して書いた第5番の最後に「それでも、私は私だ！」と言わんばかりに演奏される「ラ」の音。統制下



の中においても自分自身を主張しようとしたシヨスタコーヴィチの想いではないかと推察される。

さて、もう一つの疑問として残るのが、第4楽章のテンポ設定である。前述のバーンスタインの華やかで爽快なテンポ設定と、重厚で意味深なソ連(ロシア)系の演奏に二分されると言っても良い。では何故2つのテンポ設定が生まれたのか？実は出版された譜面上に大きな誤植があった。第4楽章のコーダ部分に指定されたテンポは、四分音符 $\parallel 88$ であったが、何故か、出版された楽譜には $188$ と掲載された。当時、西側諸国には自筆譜を見る可能性はなく、出版されたものに頼るほかなかった。従って西側諸国は、この $188$ を何の疑いもなく演奏していた。事実、バーンスタインの録音も、速いテンポで演奏されている。私を感じた華やかで爽快なテンポだ。しかし、東欧諸国では $88$ という重厚なテンポ設定で演奏されていた。シヨスタコーヴィチが生まれたのは $1906$ 年。この作品が作曲されたのは $1937$ 年(昭和 $12$ 年)。世界では第2次世界大戦が勃発しようとした時期。そして亡くなったのが $1975$ 年(私は $5$ 歳！)。

決して古い時代の作品ではない。

シヨスタコーヴィチ自身も、この誤植に気付いていた筈である。なのに、何故修正しなかったのか？更に第4楽章冒頭のテンポ設定にも同じことが言える。冒頭のテンポ設定も、コーダと同じく四分音符 $\parallel 88$ 。初演こそ冒頭のテンポを $88$ 位で演奏したムラヴィンスキーであったが、何故か後期の演奏ではテンポをグンと上げている。更には、誤植されたテンポ設定のまま、バーンスタインがニューヨーク・フィルと共にモスクワで演奏した際、作曲家自身がそのテンポでも大絶賛したという記録も残っている。はてさて、何が正しくて、何が間違っているのか私には「迷い」だけが残ってしまう。更に！ピアノ・ヴァイオリン・ヴィオラで演奏される八分音符上向音程も、ムラヴィンスキーと他では、異なった音列で演奏されている。そのどれもがシヨスタコーヴィチには容易に修正できた筈なのに。近現代を生きたシヨスタコーヴィチの作品が、これほど音符で悩むとは思ってもしなかった。東西冷戦によつて生じた悲劇の一つとも言える。これを修正しなかったシヨスタコーヴィチが「どのテンポを選ぶのも自由なんだよ。その自由こそが、この共産党体制を変えるんだ！」と言っている様に、私には聞こえるのである。

# 阿部磨先生(ホルン)インタビュ

今回グリエールの難曲、ホルン協奏曲を吹いていたたく阿部磨先生にお話を伺いました。ご多忙の中、岐響練習場から岐阜駅への送迎車内でお伺いしたこのインタビュ、先生の意外な岐阜との接点(?)も窺い知ることが出来ました。

本日はありがとうございます。素晴らしいホルンソロをお聞かせいただくことが出来ました。

グリエールはこれまでに新日本フィルなどと、4、5回くらい演奏しました。コンクールの優勝記念コンサートでもこの曲をやったことがあります。ありがとうございました。

この曲は「oo. ロマンティック!

非常にロマンティックな曲です。懐古主義でもあります。美しいメロディー、長大なメロディーはグリエールの魅力、なのではないでしょうか。フレーズが切れないですね。

この曲を演奏されるにあたり、特に意識していらっしゃることはありますか?

この曲はレガートが多い曲です。で、どうやったらレガートがもつと綺麗になるのか、美しいスラーがどうあつたら演奏できるのか、いつも考えています。また、これはグリエールに限った話ではないですが、フォルテを吹くときにどうやったらいかに力が抜けるか、美しいフォルテで朗々と歌うことが出来るか。とかくこうホルンに限らずフォルテで書いてあると力んでしまいがちですよ。じゃなくて、いかに脱力出来るか、そういうことはいつも考えています。

他には、前はこうやったけど、今回はこうやってやるのかなとか、アイデアが湧いてきたものをいろいろ試してみています。例えば今回、スコープをよく読んでみたら、ハーブが大事だと思つて、今回お願いして

ハーブを真ん中に置いていただきました。

本日の練習中の、先生のオーケストラに対する視線、集中力には驚きました。

いろいろな楽器がありますがオーケストラというのは一つのものじゃないですか。その中でみなさんがどんな仕事しているのかなあと。

アンサンブルは楽譜から目を離して、顔を上げて、初めてアンサンブルが出来ると思います。楽譜を演奏すればいい、というだけだったら家でCDかけてでも演奏出来ますね。でも生(ナマ)の相手がいるわけ

で、それは音をプルツと外したりとか、音程が高かったり低かったりとか、そういうのが生の相手がいるということであつて。相手と化学反応

するのが、アンサンブルする楽しさなのではないでしょうか。相手のことを気遣い、この人はこういうことをしているんだと、そうするとアンテナの数が増えますよね。お芝居を見に行つて、俳優さんが「君のことが好きなんだよ」と言う時、台本

に目をやりながらは決して言わな

いですね。演奏者はメッセンジャーですから、メッセージを届けたいですね。

音の処理の仕方にもいろいろとご指導いただきました。

勿論楽譜通りには演奏するのですが、それがどういうフレーズなのか。英語の通訳でも、意識しますよね。「Good Morning」をそのまま訳したら「朝!」じゃないですか。それはおかしい。「おつかれさまでした。」をどう訳するんだ、つてなつた時「Good」ではやっぱりおかしいですよ。

先生のホルンへのきっかけはどこから始まったのですか?

小学校の時にトランペットをやつてたんですけど、4年生の終わりのころ、先輩がやつたホルンの席が空いて、その時トランペットの友達から、「ちよつとホルンのオーディション受けてみようよ」という話になりました。僕はほんととそれがイヤだったんです。ちよつと親にトランペットを買ってもらつたばかり

のタイミングだったので(笑)。イヤだったんですけど断れなくて、じゃあ受けようって受けたら、僕だけが受かってしまった。それがきつかけでホルンになりました。

小学校では鼓笛隊だったので、マーチばかりをやっていました。ホルンは後打ちしかやらないので、「ホルンってなんてつまらない楽器なんだろう…」って思っていました。それにFシングルのホルンだったので最初は何の音を吹いてるのかもわからなくて：難しかったですね。

その後、ホルンの道を選ばれたのは、やはりホルンがお好きで続けたかったからですよ?

いや、違います。もちろん好きなものもありました。でも本当は、中学3年生のころになるとわかにかに高校受験の話になってきますよね。それで受験勉強するのイヤだな、と思ってしまうが、だったら音楽高校っていう手がある、それだ!と。楽器が出来れば勉強しなくてもいいのか、と安直な考えで。でも僕は一度決めたら絶対に変えないので、背水の陣でそれだけやりました。自

分の子供には勉強させますけど(笑)



ずばり、ホルンの曲でお好きな曲をお聞きしてもいいですか?

いっぱいあるので、迷いますけど、今パツと思いつく、今日好きな曲でもいいですか? 今グリエールやっただばかりだからかもしれないですけど、グリエール作曲の無言歌はいい曲ですね。本当は元々歌の曲だと思っただけで、ホルンで楽譜も出てる曲です。歌詞なしのホルンで演奏すると、ヴォカリーズみたいで綺麗な作品です。あ!あとスクリャービンのロマンス、これも綺麗です。：何でだろ、ロシアものばかり出てきます。今日だからだと思いま

す。明日になったらまた違ってくるかもしれない(笑)

先生はサイトウ・キネンオーケストラに毎年参加されています。個人的にはハーディング指揮のアルプス交響曲のCDがとても気に入っています。いい意味でオーケストラが内側に向かって集中しているというか。

あれはライブ録音で、直して(修正して)ないですよ(笑)。みなさん素晴らしい。だからこれも、アンサンブルで演奏しているということですよ。

サイトウキネンの他は、様々なオケに出たり、室内楽やリサイタル等も行います。アマチュアオーケストラでのレッスンなど、いろいろやっています。

(このインタビュの最中、長良川堤防を走行中、ライトアップされた岐阜城が見えてきた時のことでした。)

あ!岐阜城、稲葉山城だ!

え!? 先生は稲葉山城、という呼

び方をご存じなんですか?

僕ちよつと詳しいんですよ。登ったことありますけど、結構大変でした。こんなに急な山城なのかと。これは攻めづらい山城だろうなと思えました。

それにしても、岐阜城を稲葉山城と言ってる人は地元でも少ないかもしれません!

岐阜は特別です。

そうなんですか!?

だって「岐阜」ですよ。斎藤道三、織田信長ですよ。それに斎藤義龍、稲葉一鉄…(お話が続く…)

岐阜に来るのは嬉しいですので、また是非呼んでください。

是非またよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

インタビュー Hr 畑 匡人

岐響団員が語る！

楽器の魅力・楽器との出会い・楽器への思い

ファゴット編

まずはファゴットという楽器のご紹介です。

(井村先生に敬意を表して、関西弁※でいきまっせ) ※注：筆者は神戸出身

A: じぶん、ファゴット吹いどんやろ、何が面白いん？

B: まずは低音の魅力と、その音色やね。女性の低い声や男性の声に近く、伴奏からソロまでの幅広く受け持てるオールマイティな楽器やねん。少数民族やけど、人口増えて欲しいな。深く沈み込む様な音から悲鳴に似た高音まで色々出らんねん。ペートーヴェンは「天からの声」と表現したほどやねんで。A: そりや上手い人が吹いたときやろ。でも、メンバー表は Bassoon になつてるけど、間違うとんちゃうの？ 間違うてるのは、人間性だけにして欲しいわ。

B: 放つて！ バスーンは英語、ファゴット (FAGOTT) はドイツ語やねん。19世紀前半にドイツで改

良が進み、現在は世界的にドイツ(ヘッケル)式が主流。フランスではちよつと古いタイプの楽器…バノン(BASSON)も若干使われてる。低い音やさかい、BASS が語源やけど、ドイツやイタリアでは新東を意味するファゴットと呼ばれてらんねん。長い管を二つ折りにしてるからね。まっすぐ伸ばしたら、2.6mも有んねんで。

A: 半分でも、まだ長いやん。煙突みたいに飛び出でて、邪魔やし。

B: 煩いな…。それに広い間隔で孔が明いてるのをあちこち塞いで音程を作るんで、やたらキーが沢山有つて、十本全部の指で複雑な組合をせなあかん。右親指でキー(四つ) 操作するのはファゴット位のもんやで。左親指にはキー9つもあるし。

A: へー、もしかして器用？ それとも頭ええん？ 見かけによらん

B: 何感心してんねんで、孔も真直ぐや無うて斜めに明いてたり、一つのキーで三つの孔を塞いだりす

るんで、音程が減茶取りにくいし、音量も出にくい。

A: はは〜ん。自分が下手なのを、楽器のせいにしてるな。

B: 喧しい、排除するぞ！

A: 何やて、少数異見をも大事にするのが民主主義とちゃうん？

B: おつおお…。とにかく、この気難し屋さんを、上手に手懐けるのがええんや。

A: 何か気色悪いな。ところで、禁煙パイポ(古っ)みたいなん啜えてるけど、何？

B: 発音体の「リード」や。葦(植物)の茎を削つて二つ折りにして作るねん。二枚になつてるから、オーボエと同様ダブルリードと呼ばれる。

A: つまり、二枚舌つちゅうわけね。

B: いちいち、引つ掛かるな。もう長なつたし、今日はこの辺にしようたるわ…。

A: おあとが宜しい様で。m

(田中 聡)

「このオケに入りたい！」

白石 理恵子

大学のサークルに入ったとき、高校

の吹奏楽部でやつていたホルンから離れ、新たに始めたのがファゴットでした。これが、ファゴットと私の出会いでした。コミカルな雰囲気から色気のある音色など、幅広く奏することができるファゴット。おそろく、多くの人がテレビCM等でも知らないうちに耳にしているであろう、素朴でどこか懐かしく感じられる音色。この魅力に惹かれ、大学二年生のとき、念願のMyファゴットを持つことができました。

就職してからも、せっかく始めた楽器は続けていきたいと思つていたので、T氏のお誘いもあり、ファミリコーンサートの練習風景を見学させていただきました。譜読みのはずなのに、本番さながらの気合の入つた勢いある演奏が、練習場と私の心に響き渡りました。「楽しい」「音楽大好きだ！」というエネルギーと、日頃の仕事等の疲れを吹き飛ばすかのように譜面に向かう先輩方の姿が、とても印象的でした。私も仲間に入れてもらい、一緒に楽しく楽器を続けていきたいと思ひ、入団させていただきました。

何回も演奏会に出させていただいてるうちに、岐響が六十周年という大きな節目を迎えました。地域の皆様があたたかく見守り支えてくださつて居る事の重みと感謝を感じずにはいられませんでした。

技術が未熟で深みのある演奏はできず悩ましいですが、MYファゴットと出会ってから今年で十年目。子育てをしながらですが、ありがたいことに夫の理解と協力もあり、復帰させていただきました。地域の中で育ってきた岐響で活動できることへの感謝と誇りを持ち、今後も岐響の歴史をつないでいく一員として、微力ながらも活動していきたいと思っています。

「ファゴットと湿気」

清 亜希子

ファゴットはすぐ湿気に弱い楽器で、今までいろいろなトラブルがありました。

3年ほど前、あるオケの本番当日、午前のリハーサル後、楽器を片付けていた時、一番下のタンポ（キーを指で押すと、いろいろな穴が開いたりふさがれたりします、この、ふたの内側に息が漏れないように貼ってあるもの）が外れました。楽器店のリペアの人に応急処置の方法を聞いたところ「大きいタンポなので、周り（穴をふさいでいる部分じゃないところ）をテープで止めれば大丈夫ですよ。」と教えてもらい、本番はそれで乗り切りました。偶然楽

譜製本に使う紙テープを持っていて…。

翌日すぐに楽器店で修理してもらいました。ついでに他のタンポの貼り直しや、きちんと入らないベルのジョイントを少し削ってもらい、ジョイントの糸のまき直ししてもらいました。

これで当分楽器は大丈夫と思っていましたが、今春、ある室内オケの本番当日、午前中のリハーサル前、真ん中のCより下の音が激しく息もれしているような変な音しかしません。偶然ホールのそばに前回もお世話になった楽器店がありましたので、電話してすぐ向かい、修理してもらいました。

今度は演奏中に一度も使ったことないキー（C#トリルキーと言います。使わなくてもトリルできます）のタンポが外れていました。このキーは、タンポに水分がたまりやすい場所なので、掃除の際にキーを動かして水分を飛ばし、クリーニンングペーパーで水分を取ります。恐らく前日練習後の掃除のときに外れたようです。この一度も使ったことがないキー、穴をふさいで取ってしまうと音が変わってしまうらしいです。

そして、今年夏、岐響の依頼演奏会の前日練習後、湿気でベルのジョイント

トが膨らんで取れなくなりました。手伝わしてもらって何とか取れました。そういえば昨年夏の依頼演奏（こちらは学校の体育館）の時も雨の湿気でベルが取れなかったことがありました。本当に湿気は大敵です。タンポも結局湿気の影響あるので…。元々乾燥した地域の楽器なので日本は向いてないのね、と思いつつ、日々練習しております。

「僕のクラシック音楽との出会い」

青井 文男

子供の頃、音楽に接する機会といえはラジオから流れてくるのを聞く程度で、音楽の時間にリコーダを吹いたり、叔母が歌う美空ひばりを口ずさむのがやつとでした。

転機は中学の吹奏楽です。指導は、英語の先生が指揮をする団員20人程度のこじんまりとした部活でしたが、運動会にみんなが行進するのに合わせて演奏したり、今は祭日となった海の日の名古屋港でパレードをしたり、愛知県体育館で消防音楽隊の演奏を聴きに行ったりと、実に楽しい3年間でした。

次の転機は岐阜大学管弦楽団に入ったことです。入学から少したった

5月に、入部したいと部室を訪問し、クラリネットがやりたいと団長に伝えたところ、1年生が2人入り4人になったので他の楽器にしてほしいと断られ、弦楽器ならヴァイオリンなど何でもいけれど、管楽器はホルンとファゴットしか空いていないと言われました。実は、どちらの楽器も見たことがなく、クラリネットと同じ木管楽器のファゴットに決めました。

それからが大変です。リコーダやクラリネットの楽譜と同じト音記号であれば読めるのですが、ファゴットはヘ音記号なのでさっぱり読めないのです。また、楽器は状態が良いとは言えないものの、何とか大学から借りることが出来ました。先端に付けて息を吹き込むリードがないのです。当時は楽器屋さんでファゴットのリードが手に入らなく、レッスンに行つて先生に作っていただくか、頼み込んで先輩にお古をいただくしかありません。このリード作りと調整は今だに苦労しています。

こうしてクラシック音楽に初めて出会った。最初に大学で借りたレコードが、今回演奏する曲と同じ、バーンスタイン指揮ニューヨークフィルハーモニックのシオスタク「ヴァイッチ交響曲」第5番です。今回の演奏会で、また私のクラシック音楽の原点であるこの曲が演奏できてとても幸せです。

## 第12回岐阜県オーケストラフェスティバル

10月9日、不二羽鳥文化センタースカイホールにて「第12回岐阜県オーケストラフェスティバル」が開催されました。これは、岐阜県アマチュアオーケストラ連盟に参加する5つのオケが3年に1回集まり、演奏会を行う行事です。今回は岐響が主管を努め、およそ100人のオケによる映画音楽等大いに盛り上がりました。

「岐阜県オーケストラフェスティバルに参加して」

クラリネット 松浦智美

ちょうど前回、岐響が主管のオケフェスの時は入団前で演奏会を聴きに行きました。岐響への入団はその後でしたので、今回、フェスティバルオーケストラのメンバーとしても主管オケのメンバーとしても初めてオケフェスに出演しました。

岐響が演奏したラフマニノフ作曲ピアノ協奏曲第2番はこれまで何度も練習の代奏として、またそれを機に本番でも弾いていただいている金田紗希里さん × 我らが指揮者田中陽治さんとの演奏お届けしました。

この曲がもつ甘美で切ないメロディーが印象的。個人的には第2楽章でピアノのメロディーとともに演奏するアルペジオの絡み、第3楽章でピアノが演奏する第2主題のメロディーのオブリガートを一緒に演奏できたことはすごく幸せでした。

後半のフェスティバルオーケストラでは、映画「レイダースマーチ / 失われたアーク」よりレイダース・マーチと映画「スターウォーズ」組曲、アンコールに映画「E.T」より「フライングテーマ」でした。

普段クラシックの演奏が多い私たち。それぞれの団での活動の中で取り上げることが難しいポピュラーミュージックに挑戦しようということでこれらの曲を演奏することになりました。

今回、この演奏会の練習が始まる頃、アパレルメーカー G.U では映画「スターウォーズ」をはじめとした映画とのコラボレーション T シャツが販売！本来ならば映画を見て世界観に浸るところから始めるべきだとは思いますが、ビジュアルからな私は T シャツをゲットしました。岐響メンバーには私と同じ思いのメンバーがいらっちゃって、みんなで練習時に着用していました。

そんな話はさておき、今回これらの曲をなんと100人での演奏!! 迫力のあるこの曲を100人での演奏となれば、迫力満点の演奏だったのは言うまでもありません。練習回数は限られていましたが、指揮者の柴田先生の指導のもと映画の世界観が垣間見ることができた演奏になったのではないのでしょうか。

今回、団を越えて作り上げた音楽はかけがえのないものになったと思います。次回の可児公演でも素晴らしい音楽の時間が待っていると思います。

最後になりましたが、たくさんの方々を支えられ、このような公演が開催できたことに感謝します。

